

2022年 4月 20日

キャリアコンサルティング技能検定1級 学科・論述・面接試験 体験記

1級受検番号 NO 03F1120075 氏名 K (東京都 在住)

■1級技能士を目指したきっかけ

実務経験が10年を超え、実務や更新講習を通して自己のスキル向上を実感するようになりました。また、キャリアコンサルタント有資格者が自分ひとりの現職において、無資格者に対する指導を含め、質の高いキャリア支援を行うことに課題を感じていました。そのため、1級の受検を通して、自身を見つめなおすと共に、さらなる学びを得たいという気持ちがありました。しかし、過去に2級を何度も不合格になったことから、踏み出せずにもいました。1年に一度しかない受検機会だと自らを奮い立たせ、今回挑戦しました。初めての受検で合格でき、正直驚いていますが、純粋に嬉しくも感じています。

■当初の勉強法

周囲に1級取得者がいないため、インターネットでこちらの技能士の会を知り、合格体験記を読んで参考にさせていただきました。受検申込後すぐに、『キャリアの青本Ⅲ(上/下)』『キャリアの赤本Ⅲ』『1級実技試験(論述・面接)合格バイブルZ』を購入しました。中でも、『合格バイブルZ』はとても勉強になり、この1冊で合格できたと言っても過言ではありません。また、会のHPに掲載されている「1級検定実技(論述・面接)試験における事例相談者の『問題』分析」「1級面接試験の進め方」も熟読し、日頃の実務において実践を重ねました。

■合格のきっかけ

2級の不合格要因は、面接(ロールプレイ)に対する過度な苦手意識と、その後の口頭試問でした。そのため、合否は実技試験次第だと考えていました。1級の勉強を通して、①面接を構造化できるようになったこと(システムティックアプローチのプロセスに従って捉えられるようになったこと)、②口頭試問の位置付けを理解して対策できたことが、合格の決め手だと感じています。ただし、面接を構造化していくためには理論が欠かせず、学科試験の勉強をおろそかにしてはいけなことも痛感しました。また、受検目的は学びを得ることであり、その結果としていつか合格できればいい…と気持ちを切り替えられたのも大きかったです。

■学科試験の勉強

本を購入した安心感からか、あまり勉強に身が入らず、受験1週間前になってようやく本腰を入れた状態でした。そのため、筆記試験当日の朝に過去問をしたところ60点(不合格ライン)で、勉強不足を猛省しました。ただ、合格できたことの原因を振り返って考えるならば、

- ・日頃から本や文献を読み、政府関連資料にも目を通していったこと。
- ・購入したキャリアの赤本/青本を仕事の昼休憩時に読み、情報のアップデートが必要な「職業能力開発基本計画」「厚生労働白書」「労働経済の分析」「男女共同参画白書」を該当省庁からダウンロードして通勤中に目を通すように、隙間時間での勉強の仕組みを作っていたこと。
- ・幸いにも、受験当日に取り組んだ過去問から同様の問題が出題されたこと。

以上のように、普段から少しずつでも勉強していたことが合格に繋がったのだと思います。

■論述試験対策

過去問に取り組んでみたところ、論述の構成を考えて文章化するのに、想像以上に時間がかかり、対策の必要性を感じました。その後、『合格バイブルZ』を読み、自分の論述が場当たり的であること、面接を一般化／構造化して考えることが論述試験で求められていることに気がきました。そのため、(過去問に取り組むのではなく)『合格バイブルZ』を熟読し、合否の違いを把握することに専念しました。特に、58～59点の不合格答案と、60～61点で合格という僅差の答案比較から、論述において何を記述する(捉える)ことが必要なのか、さらには高得点の合格答案では、どこまで記述できれば評価が高まるのか、それらを把握することで面接を(場当たり的ではなく)構造化して考えられるようになりました。

論述試験は、学科試験のように解答が示されないため、対策を立てにくい印象がありますが、『合格バイブルZ』で十分対策ができました。面接を構造化して考え始めるようになり、ようやく、論述試験が(学科試験ではなく)面接試験の一部であることを理解できました。そのため、『合格バイブルZ』での論述試験対策は、その後の面接試験対策にもなりました。

■面接試験対策

『合格バイブルZ』に付いているDVDの視聴とその逐語録で勉強し、日頃の業務において繰り返し実践を重ねました。苦手意識のあった口頭試問ですが、DVDでは口頭試問まで網羅されていたので、大変助かりました。

具体的な面接試験対策としては、導入部分に注力しました。1分程度の自己紹介であっても、メモを取ることや守秘義務説明などの場面設定も含めると、面接冒頭で冗長的になりやすいからです。話し始めが上手いけば、自身の緊張も解け、その後の関係構築もスムーズになると考えました。対話を意識したシナリオを準備し、自然に話せるように繰り返し練習しました。

当日の面接試験のケース内容は事前に通知されますが、ケースに対する方策はあまり決めすぎないようにしました。自分の結論に強引に進行してしまいかねないからです。特に、理論説明が求められる具体的展開では、準備しておかないと自身が困るものの、慣れない理論を用いると不自然な展開に陥りかねません。私の場合、理論基盤が来談者中心療法であることを自己紹介で入れていたため、傾聴スキルの中からいくつか具体的方策(感情への応答や意味への応答など)を示せるように復習し、あとは当日の面接の流れに委ね、目の前の事例相談者に集中するようにしました。本番の面接試験では不安になる場面もありましたが、上手いかなかった点は口頭試問で挽回できることを『合格バイブルZ』で学び、最後まであきらめないことを心がけました。

■受検される方へメッセージ

キャリアコンサルタント資格を比較的容易に取得できたことから、2級も合格できるという驕りがありました。2級を受検しても不合格が続き、自己と向き合うことから目を背けてしまったため、1級を初回受検で合格したとはいえ、受検までには10年近くかかりました。今回合格できたのは、「自分は合格するに違いない」「不合格になったら恥ずかしい」という気持ちが消えたこと、そして1級の試験勉強がとても学び深かったからだと思います。学びを得ることの面白さや醍醐味を感じながら取り組まれると、少しは気負いも取れ、ご自身の力を発揮できるのではないかと思います。